

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
FMD News Vol.94をお届けいたします。

YouTube



FMD
OWNER'S CLUB



8月のTOPICS

■ 家庭血圧、24時間自由行動下血圧(ABPM)と血管内皮機能

9月15日～17日で大阪国際会議場にて第45回日本高血圧学会総会が開催されます。FMD news 7月号では診察室血圧での降圧薬治療とFMDについて記事にしました。そこで今号では家庭血圧やABPMと血管内皮機能についてご紹介いたします。

診察室血圧以外では家庭血圧、24時間血圧、昼間血圧、夜間血圧が診察室外血圧として高血圧の診断に用いられています。その中でも仮面高血圧は診察室血圧の平均が収縮期血圧 140mmHg 未満かつ拡張期血圧 90mmHg 未満で、家庭血圧が 135mmHg 以上かつ / または拡張期血圧 85mmHg 以上あるいはABPMでの24時間平均血圧が収縮期血圧 130mmHg 以上かつ / または拡張期血圧 80mmHg 以上である場合とされています。

以下は仮面高血圧とFMDについての報告です。

降圧薬を服用せず、診察室血圧が正常血圧であり、網膜症、微量アルブミン尿、明らかな心血管疾患のない2型糖尿病患者(n=80)において、24時間のABPMにて仮面高血圧を判定し、FMDを測定した結果、仮面高血圧は47.5%(n=38)で検出され、正常血圧者と比較するとFMDが有意に低値であった(正常者: $5.65 \pm 2.00\%$ 、仮面高血圧: $4.26 \pm 1.88\%$ 、 $P < 0.01$)。さらに多変量回帰分析の結果、ABPMで測定した日中の収縮期血圧、糖尿病罹患期間、血清トリグリセリドはFMDと有意に関連していることが示されました¹⁾。

次に血圧の日内変動についてです。

夜間血圧は日中血圧に比較して10-20%低下します。この正常型をdipperと呼びます。それに対し、夜間血圧低下が0-10%をnon-dipper、夜間血圧上昇型をriser、夜間血圧が20%以上低下型をextreme-dipperと言います。

高齢の高血圧患者の検討では、extreme-dipperやriserは脳心血管リスクが高くなることが知られています。また、正常血圧の高齢者でもextreme-dipperのFMDはdipperと比較して有意に低く、健康な高齢者のextreme-dipperが内皮機能不全と関連している可能性があることが報告されています²⁾。

高血圧リスクをより詳細に検討するにはABPMやFMDを活用することが有効と思われます。

- 1) Am J Hypertens. 2012 Feb;25(2):165-70.
- 2) Blood Press. 2008;17(3):134-40.

■ 人間ドック学会展示会、高血圧学会展示会のご案内

第64回日本人間ドック学会学術大会

会期：2023年9月1日(金)～2日(土)

会場：Gメッセ群馬 展示ホール

第45回日本高血圧学会総会

会期：2023年9月15日(金)～17日(日)

会場：大阪国際会議場10階ホワイエ